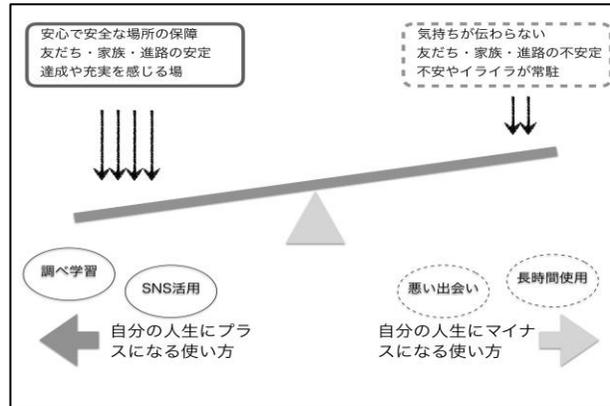


情報モラル通信

令和2年11月2日

「情報モラル」とは・・・「情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方と態度」
「情報機器(スマホ・ゲーム機)から遠ざける」のではなく、
「情報機器と上手に付き合っている子どもを育てる」ために

1. インターネットを使うのは「人」



インターネットの時代も、その時代を作るのは「人」。機器の使い方を教えることに終始するのではなく、その「人」を社会全体で育てていきたい。

上の2つのツイートは熊本地震の際、実際に高校生によって書かれたものです。震災後4年経ちますが、若者が惜しみなく奉仕活動に携わる姿は、まだ記憶に残っています。あの時若者は、人の役に身体を動かして立とうとすると同時にSNSを人助けのために活用しようとしてしました。これは、誰に教わったわけでもなく、自発的な行動として起こりました。子どもたちの中には、人のためになることをしたいという素晴らしい心が存在しています。インターネットも活用の仕方次第で、人を幸せにする道具となるのです。

では、どのようにすれば社会や自分にとってプラスになる使い方ができるのでしょうか。道具を使うのは人です。だとすれば、その人がどういった心の状態にあるかが、その人の道具の使い方に大きく関わります。右上に示す図は、その人にかかる心的なものをシーソーに見立てて表したものです。点線で囲む、心の負担になる様々な要因が多いと、シーソーは図とは逆に傾きマイナスな使い方をしてしまいます。しかし、心が安定していると図のようにプラスの使い方ができるのです。子どもたちにインターネットと程よい距離感を持たせて活用できる力を身につけてもらうには、子どもの環境を整えることが大切です。ご家庭で図を用いながら話し合ってみてください。

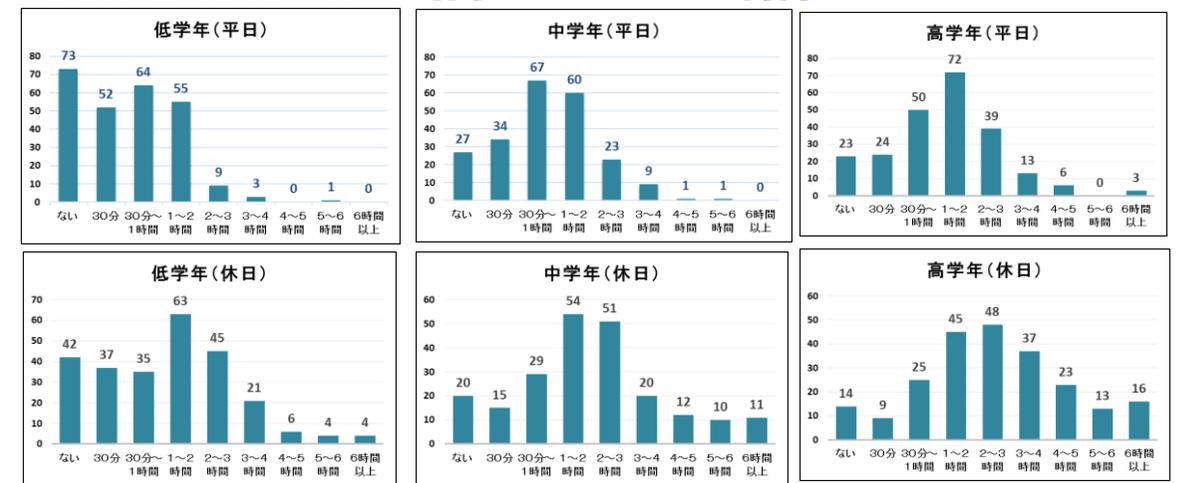
2. リスクを知る

スマートルール? TikTok?

まずは、ここから始めなければならないと思います。何のためにルールを作るのか、それは、子どもたちを、インターネット利用に起因する様々な問題から救うためです。もちろん、怪我をして覚えていくことで成長するものもありますが、インターネットの特性として、一生の傷になったり、命を奪ったりしてしまうものもあります。家庭内のルール作りは、子どもたちを監視し縛るためにあるものではなく、家庭内でインターネットとの付き合い方を、子どもと一緒に話すためにあります。ルール作りを通して、子どもたちにリスクを伝えることが大切です。詳しくなれば、子どもと一緒に考える、その時間こそが、子どもたちを守る活動になります。リスクは大きく分けると4つ。「加害者被害者の両面で犯罪に巻き込まれるリスク」「個人情報流出のリスク」「対人トラブルのリスク」「依存や有害情報からの悪影響」これらのリスクに応じた各家庭の実態に合わせたルールを作ればよいと思います。大切なのは、管理ではなくルールの運用です。なぜなら、ゴールは子どもが保護者の手から離れたときに、自分ひとりで正しく『自分も人も傷つけない使い方ができるようになっている状態』です。一人暮らしをした途端に、スマホ依存になってしまい、仕事や学校に行けなくなったのでは、意味がありません。

3. 中藤小学校児童のインターネット利用時間

Q. 1日あたりどれくらいの時間インターネットを利用していますか?



お子さんは、上のグラフのどこに位置するでしょうか?単に『時間が長いから悪い』、『短いから大丈夫だ』という考えではなく、その時間で何をしているのかが重要です。小学生の段階で、自分で使用する時間の管理をすることはほぼ不可能だと思います。お子さんが何をどのくらいやっているのか本当に把握していますか?

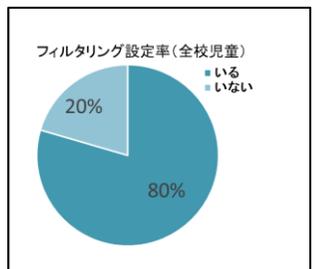
4. フィルタリングについて

青少年インターネット環境整備法や福井県青少年愛護条例により、携帯電話事業者等は、保護者が契約者でも実際の使用者が18歳未満の場合、フィルタリングについて書面等で説明し、その場でフィルタリングソフトやOSを設定することになっています。

また、子どもの利用状況を適切に把握するとともに、18歳未満が使用者である旨を申し出ることで、フィルタリングの説明を受けること、フィルタリングソフトやOSの設定を行うことなどが保護者の役割となっています。

「子どもが使いたいアプリやサービスが使えない」という理由でフィルタリングを外してしまう例を耳にしますが、フィルタリングを設定していても、個別のアプリやサイトごとの設定ができるので、フィルタリングの制限対象になっているアプリやサイトでも、保護者が許可することで利用が可能になります。そのため、子どもの利用状況や成長段階、スキルに応じて、細かに設定を調整しながら使うことができます。

まずは、大人がフィルタリングについて理解し、子どもの安全を守る必要があります。(参考) 令和元年度 青少年のネット非行・被害対策情報<保護者向け第21号>福井県安全環境部県民安全課



5. おねがい

情報モラル教育に限らず、子どもたちは、【家庭・地域・学校】それぞれが、それぞれの立場から見守り、育てていくことが大切です。特にスマートフォンやゲームをする場所は、家庭が大部分を占めるため、保護者の方の正しい知識と子どもへの教育が不可欠です。学校でもこれまで、情報モラルに関する教育を授業などを通じて行ってきました。今年度もさらに道徳や学活などを使って進めていく予定です。ご家庭の方でも、ルール作りやSNS等に潜む危険性を伝えていただいていると思います。ありがとうございます。引き続き、高いアンテナと関心を持っていただき、一緒に子どもたちの情報モラルを育てていきたいと思っておりますので、ご協力をお願いいたします。